

令和6年度学校評価報告書

北海道教育委員会教育長 様

北海道室蘭東翔高等学校長

次のとおり令和6年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

- | |
|----------------------------------|
| 1 自ら学び考える意欲、新しい知識を獲得する力の向上 |
| 2 多様な人々と協働する意欲、自らの言動を律する力の向上 |
| 3 主体的に進路を選択する意欲、情報を取捨選択・活用する力の向上 |

2 自己評価結果・学校関係者評価の結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	教職員アンケートでは、「自ら学び考える力の育成が不十分」とした方が20.6%（15.3%）、昨年度に比べ取組が「やや不十分とする」割合が増えた。生徒アンケートでは、「意欲的に授業に取り組めていない」とした人が18.5%（20.7%）、「勉強の仕方が身に付いていない」とした人が20.1%（24.4%）であり、前向きに学習に取り組む姿勢が見られるものの自己の取組が不十分であると感じている者が全体の5分の1おり、これらの者に対する対応が必要である。引き続き、「主体的、対話的で深い学び」をとおし「思考力、判断力、表現力」「学びに向かう態度」の育成を図る取組を継続する必要がある。	学習指導の「自己評価と取組」、「改善方策」は、適切である。
改善方策	(1) 各教科・科目の特性に応じて探究活動を中心とし、ICTを活用して協働的な学び、個別最適な学びを連動させながら主体的に学ぶ力を育成する。 (2) 授業規律を徹底するとともに、家庭と連携して学習の習慣化に取り組む。 (3) 計画的に「授業研修会」を実施し、教員の指導力向上に努める。	
生活指導	教職員アンケートでは、「挨拶、身だしなみ、礼儀作法の習慣化、基本的な生活習慣の確立が不十分」とした方が29.4%（23.0%）で昨年度に比べ増加し、約3分の1の教職員が取組を不十分と感じています。「自他を尊重する心を醸成し、いじめ防止に取り組んだ」とした方が91.2%（94.9%）と昨年同様に取組が進んでいる。生徒アンケートでは、「東翔生は規則や決まりを守っていない」とした人が34.3%（35.1%）、「礼儀やマナーが身に付いている」と回答した人が92.4%（92.7%）、「先生方は社会ルール、日常生活マナーをしっかり指導している」と回答した人が87.4%であり、「先生方の指導によって礼儀やマナーは身につけているが、校則は守られていない」という東翔生の意識について更に精査し、対策を検討する必要がある。ソーシャルスキル（社会生活における人間関係を円滑に進めるために必要な能力・技能）の育成を図るとともに、引き続き、多様な考え方を認め協働する心、自らの言動を律する事ができる心を育てる取組を継続する必要がある。	生活指導の「自己評価と取組」、「改善方策」は、適切である。

改善方策	(1) 人としての在り方・生き方を考えさせるとともに、ネット社会における倫理観やルール・マナーの育成に取り組む。 (2) <u>生徒を主体とした計画的な規範意識を高める活動の実施、家庭と連携した基本的生活習慣を身につける取組を推進する。</u> (3) 分掌を中心とし各年次間で共通理解・連携しながら指導する組織体制を強化する。	
進路指導	教職員アンケートでは、「キャリア教育と進路指導をしっかりと推進している」とした方は全員であり（100%）、昨年同様積極的な取組を高く評価している。保護者アンケートでは、「進路に関する情報提供が不十分」とした方が14.5%（16.3%）いることからキャリア教育の取組については、概ね理解されているが、進路情報の提供については、年次に応じて取組を改善する必要がある。生徒アンケートでは、「進路目標が明確になった」とした人は、86.5%【1年次83.4%、2年次79.5%、3年次95.9%】であり、指導の成果が出ている。特に1・2年次において進路希望を踏まえた科目選択への理解を深め、主体的に進路を選択する意欲とともに情報を取捨選択・活用する能力の育成を図る必要がある。	進路指導の「自己評価と取組」、「改善方策」は、適切である。
改善方策	(1) 特に1・2年次におけるキャリア教育への理解を深めるために「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」と関連付けて、進路への自覚を高める学習を更に進める。 (2) 計画的な生徒面談を進めるとともに、特に1・2年次の希望者に対して<u>保護者面談・保護者説明会</u>を実施する。 (3) キャリア教育の実践内容を地域や保護者へ積極的に情報発信する。（Web、SNSを活用した適時の情報発信、ライフプラン発表会等の動画配信など）	

健康安全指導	教職員アンケートでは、「生徒自ら健康管理を行う態度の育成に努めている」とした方が97.1%（92.4%）、「危機管理体制が十分に整備されている」とした人が全員100%（89.2%）である。生徒アンケートでは、「いじめのない学校づくりを行っている」とした人が94%（90%）であったが、「悩みや困ったことを先生に相談できない」とした人が10.6%（17.5%）で約1割いる。健康・安全、いじめ問題に関する取組が進み学校全体で意識が高まって来ているが、引き続き自ら健康管理を考え行動できる力の育成を図るとともに、生徒が教員に悩みを相談できる環境づくりを強化する必要がある。	健康安全指導の「自己評価と取組」、「改善方策」は、適切である。
改善方策	(1) 生徒が自ら健康やいじめ根絶について考え、行動する活動を推進する。 (2) 危機管理マニュアルを充実させ、危機意識を高めるとともに実効性のある避難訓練の<u>実施</u>に取り組む。 (3) 生徒理解を深めるために個別面談を計画的・組織的に実施するとともに、環境整備を<u>含め</u>教育相談体制の強化に取り組む。	
学校運営 教職員の 指導力向上	教職員アンケートでは、「協働体制による時間外勤務の削減が不十分」と回答した方が、23.5%（25.6%）、「部活動負担の軽減が不十分」とした方が26.5%（15.3%）と、働き方改革について意識はしているが、一方で「全くあてはまらない」とする回答もあり、教職員個々の意識や取組に任せるしか無い現状においては、学校教育の仕組みを国レベルで改革しなければ、もう学校単位での対応策には限界が来ている。「校内外の研修の充実が不十分」	学校運営、教職員の指導力向上の「自己評価と取組」、「改善方策」は、適切である。

	とした方が11.8% (7.6%) と校内研修を充実させるとともに、新しい研修制度を踏まえ個々に応じた効果的な研修の受講を積極的に進める必要がある。	
改善方策	(1) 校務運営会議など校内組織の活性化に取り組む。 (2) 参加大会の精選や休養日の複数日設定など負担軽減に向けた部活動の取組を進める。 (3) 外部講師の活用、新任層へのＯＪＴの推進など計画的・効果的な校内研修に取り組む。 主体的、積極的な研修の受講を促進する。	
地域との連携	保護者アンケートでは、「学校情報の広報活動が不十分」とした方が21.1% (13.0%) であり、毎年増加している。保護者や地域の方の要望を踏まえながら、引き続き地域との連携強化や積極的な情報発信を図る必要がある。 保護者の「子供を東翔高校に入学させて良かった」が96.1%、生徒の「東翔高校を選んで良かった」が95.1%【1年次96.2%、2年次95%、3年次93.2%】で保護者、生徒ともに東翔高校での学校生活に満足している。教職員が懇切丁寧に生徒主役の教育活動を実践していることに高い評価を得ている。	地域との連携の「自己評価と取組」、「改善方策」は、適切である。
改善方策	(1) 学校ＨＰや学校配信メールによる学校情報の積極的な発信に努める。 (2) 学校理解を深めるため、地域や近隣の学校、保護者に対する公開授業や学校説明会を効果的に実施する。 (3) 地域の関係機関や上級学校との連携した取組を充実・拡大させる。	
公表方法	1 P T A役員会、P T A総会、学校評議員会において内容の詳細について説明。 2 学校ホームページに掲載。	